

総合教育会議 会議録

会議の名称	令和元年度第1回山口市総合教育会議
開催日時	令和元年11月26日(火) 13時10分～15時
開催場所	湯田中学校
公開・部分公開の区分	公開
出席者	<p>山口市長 渡辺 純忠</p> <p>山口市教育委員会</p> <p style="padding-left: 2em;">教育長 藤本 孝治</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 宮原 久美子</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 山本 晃久</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 佐々木 司</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 横山 洋之</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 竹内 芳雄</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 佐藤 真澄</p> <p>湯田中校長 井原 良</p>
事務局	<p>総合政策部長 田中 和人、総合政策部次長 山田 豊成</p> <p>企画経営課長 今井 宏二</p> <p>教育部長 藤本 浩充、教育部次長 吉村 計広</p> <p>教育総務課長 中村 武司、教育施設管理課長 伊藤 順子</p> <p>学校教育課長 重枝 謙二、社会教育課長 佐内 泰之</p>
次第等	<p>【次第】</p> <p>1 授業等視察</p> <p>2 会議</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 市長挨拶</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 議事</p> <p style="padding-left: 4em;">「先進の教育環境づくりについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とともにある学校づくり ・中学校でのICTの活用 <p>3 閉会</p>

内容	<p>1 視察 1 3 時 1 0 分～1 4 時</p> <p>2 会議開会 1 4 時 0 5 分 開会</p> <p>○藤本教育部長 それではただいまから令和元年度第一回山口市総合教育会議を開催いたします。この会議の進行を務めさせていただきます。教育部長の藤本でございます。よろしく願いいたします。それではこれからは着座で進めさせていただきます。それでは最初に本会議の主催者であります、渡辺市長がご挨拶を申し上げます。</p> <p>(1) 市長挨拶</p> <p>○渡辺市長 それでは改めまして、総合教育会議の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。委員の皆様方、そして今日は井原校長先生におかれましては、平素から教育行政の推進を始め、本市の子どもたちの教育環境、社会教育環境の向上のために多大なる御尽力を賜っていることに対し、厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、本市ではまちづくりの指針でございます、第二次山口市総合計画に基づき、山口に住んでいたい、住み続けたいと心から思ってもらえる、定住実現に向けたまちづくりを、市民の皆様方と力を合わせまして、オール山口で取り組んでいるところでございます。とりわけ教育分野におきましては、本市の教育目標として、「山口のまちで育む、ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体で未来を生き抜く子ども」の下、総合計画に掲げます、8つの重点プロジェクトの一つであります「将来を担う子どもたちを育む、教育・子育てなら山口」の実現に向けた様々なプロジェクトを展開しております。</p> <p>御案内の通り、昨今のグローバル化や少子高齢化の進展、急激な技術革新など、社会環境が大きく変化する中においても、本市で生まれ育つ子どもたちが自然と知恵や学力、そして社会の変化に柔軟に対応できる生きる力をしっかりと身に付けることで子どもたちの未来を輝かしいものにすることができるよう、学校、家庭、地域が一体となった教育・子育て環境の整備充実に積極的に取り組んでいるところでございます。</p> <p>少し具体的に申し上げますと、先ほどの授業視察でも御覧いただきましたとおり、先進的な取り組みでございます、タブレット端末等のICT機器の活用や、地域とともに歩む学校としますところのコミュニティ・スクールを積極的に推進いたしておりまして、まち全体で子どもたちの育ちを支える取り組みが着実に進んできているものと感じているところでもございます。また、今年度につきましては、幼稚園と中学校のすべての教室にエアコンを設置し、安全安心で快適な教育環境の整備にも取り組んでいるところでございます。</p> <p>本市といたしましては、今後とも教育委員会と手を携えて、子どもたちの育ちや学びをしっかりと支えてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様方におかれましては</p>
----	--

引き続き本市の教育行政の更なる推進に対しまして、より一層のお力添えを賜りますように、よろしくお願いを申し上げます。

これからの会議では、先ほどの授業視察や、日ごろの学校訪問で感じていらっしゃることを踏まえながら、忌憚のない御意見また御提案をいただきますようお願いを申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

(2) 議事

○藤本教育部長

はい。ありがとうございます。

それでは議事「先進の教育環境」に移らせていただきます。本市の取組み状況や、概略につきましては、お手元の資料を御覧いただきたいと思ひます。

まずは井原校長先生に中学校の現場の状況などについてお話をいただき、その後皆様から御発言をいただきたいと思ひます。

それでは井原校長先生よろしくお願ひいたします。

○井原校長

皆さん改めましてこんにちは。本校学校長の井原でございます。

今日早速来ていただいて、湯田中学校広場の方を見ていただき、どうだったでしょうか。子どもたちはやはり授業中に見せる笑顔と、あそこで見せる笑顔がちょっと違うなど感じています。心が豊かになるというか、そういう環境がこの学校にあるというように思っています。

今日は限られた時間ではありますが、そのことを踏まえて説明させていただきたいと思ひます。お手元の資料の中にありますが、それはあとで見ていただいて、こちら画面の方を見ていただけたらと思ひます。よろしくお願ひいたします。

本校の学校教育目標、「ふるさとを愛し、自信を持って活躍できる生徒の育成」と掲げております。そして目指す学校像として「全国に誇れる学校」、そして「地域とともにある学校」という本当に大きな柱を立てております。この学校像に一步でも近づけるようにという思いで教職員共々取り組んでおります。

地域の方にも目指す学校像を知っていただくということで、正門のところには大きな掲示をして、地域の方に御理解を、そして学校を支えてもらう、そういうふうな掲示をしております。

目指す子ども像ですが5つ挙げております。「地域への誇りと愛着を持つ生徒」。これを湯田中学校で1番にしております。湯田といえば湯田温泉、山口市の観光地、顔になるところ、そういうところにある学校なのだよ、君たちはその学校の生徒なのだよということを常々話しています。

コミュニティ・スクールですが、今、山口県は小中高全てがコミュニティ・スクールというふうになっています。私の考えですが、コミュニティ・スクールの取組みで今大切にしていることは、地域に開かれた、地域とともにある学校づくり推進のために学校を開くというこの一点だと思ひています。とにかく学校は情報提供を、地域の方をはじ

め、色々な方によって学校の課題が見えてくる。そして地域の声が聞こえてきて、学校の課題が見えてくると、その課題を解決するためにみんなで話し合う。学校運営協議会の委員さんで色々知恵を出し合って解決していく、そして地域の声が聞こえてくると、学校として何が地域にできるかなというところを考える。こういったことを考えることで、自然と連携と協働が生まれると考えています。

今から、ポイントを5つほど挙げますが、限られた時間ですので簡単に本校の取組みについて説明させていただきます。

まず1番目「豊かな心の醸成」。今、見ていただきました湯田中学校広場です。今日かなりの乳幼児が来て、お母さん方も来られている中で、中学生はちょっと皆さんが来られていることになんかびっくりしていて、入るのに、いいのかなという顔をしておりました。すごい緊張感のある中でやっていたのですが、何とか見せられたかなというふうに思っています。これは昼休みの様子ですが、なぜこれが始まったかを簡単に説明いたしますと、地域の方の中に、子育て支援交流広場という地域の団体があります。その方が常々思っていたのは、お母さん方がこの複雑化、多様化する社会の中でコミュニケーションが不足している。家にひきこもって赤ちゃんを抱いて母子だけで子育てをする、そういうところに危機感を覚えているということでした。とにかくコミュニケーション、色々なところでふれあいの場がほしい。そして学校では、子どもたちがこれから加速度的に変化する社会の中で生きていかなければならない。そういったときにコミュニケーション能力を身に付けていかなければならない。あと自己肯定感とか、自己有用感とか、そういったところを身に付けさせたい。そういうことを常々思っておりました。その時の校長が今の藤本教育長なのですが、その地域の代表の方と、藤本校長先生の方で、もう3年前になります。話し合いをして、なんとかならないだろうか。双方の課題を解決するためには、こういうことをしたらどうだろうかという話し合いで始まりました。これが湯田中学校広場です。活動としては毎週水曜日、今日は火曜日なのです。皆さんが来られるということで、明日の内容を今日持ってきて見ていただきました。皆さんいいですよということで、快く了承いただきました。ざっとこういうような日程です。月に1回講座があります。そして今見ていただいたのが、交流、ふれあいタイムが昼休み、給食の間、5時間目が始まる間、この時間に、先ほど見ていただきました。それでこういう場面ですね。いいでしょう、中学生の笑顔。男の子が遊んでいるのですね。幼児と遊んであげているのですよ。赤ちゃんからすれば中学生の顔があるのと、お母さん以外の顔があるということは、脳の細胞分裂がすごいのではないかと思います。やはり目で受ける刺激というのを、この時期に与えるということが大切だと思います。そういった意味では、お母さんと違う顔だなというのを、ずっと見ているのですね。赤ちゃんを抱き慣れていない男子中学生が抱いてくると違和感があるのだけれど、触っていいのだろうか、最初はこんな感じですね。これ、お母さんの笑顔がいいと思わないですか。わが子が中学生と遊んでもらっているということで、お母さんすごく喜んでおられる。いいですね、授業中の顔と遊んでいる顔の違い。赤ちゃんを見るとにこっとなります。月に1回講座をやっています。実は先ほど手形とか色々な講座をやっていたのですが、これも講座の1つです。本校の職員がハロウィンパーティーをやっているところ

です。こうやって校長室に来て私もクッキーを配りました。こうやって保健室に行って色々なクッキーとかをもらう。堂々とこの時だけ乳幼児が職員室に入ってきます。生徒は入れませんが、乳幼児は堂々と入ってきます。花生け、というかフラワーアレンジメントですね。お母さん方に少し共用の場を持ってもらうということを考えてやっています。当然、乳幼児も子育て団体のスタッフの方が常に二人常駐されているので、赤ちゃんが困ったときにはそこに全部預けて、お母さん方はこれに集中、乳幼児はスタッフが面倒を見るということで成り立っています。これはどんぐりサンタを作っているのですね、これは私がやっています。来週12月にやる予定です。私はどんぐりを拾いにいきました。松ぼっくりを事務職員に拾ってこいと言ってみんなでやろうとやっています。教育長さんが校長でおられた時に講座をやっておられて、これは筆ペン講座ですね。この取組みから見えてくる生徒たち、とにかくかわいいとか、授業も次の時間を頑張ろうかな、午前中疲れた頭を少しここでリフレッシュして午後の授業に臨むとか、そういうリフレッシュの場になっています。お母さん方はやはり中学生と触れ合うことができ子どももよい刺激になっているということとして、中には、自分の子どもが入学する学校を見ることができてすごくうれしかったと。ぜひこの学校に入学させたいというお母さんの声も聴かれました。大変うれしかったです。教職員の方ですが、やはり母親の役割とか家族とか、家族愛・人間愛、そしてコミュニケーション能力の育成とか、教室には入れないけれども、この教室には入れる。子育ての広場、お母さん対象だったなら入れるという子がおりました。そういう子にとっては居場所づくりにもなっているのかなというふうに思います。あとは思いやりとか心の安定とか、そういうことが考えられます。湯田中学校広場の役割として、学校が地域コミュニティの拠点としての役割を果たしていると私はとらえています。そのことが、子どもたちの自己肯定感、自己有用感につながっていき、開発的生徒指導、これをしなさい、あれをしなさいではなくて、子どもたちが心豊かになる。そういう場が開発的な生徒指導ということ。そういうことをすることによって、学校教育目標に繋がっていくと私は考えております。これが相関図です。真ん中に湯田中学校広場、いろんな方が関わって一つの空間ができているというふうな相関図です。さつきの会の方、今日も花がいっぱい生けてあったのですが、今日は午前中に地域の高齢者の団体の方が、花を月に二回生けてくださいます。A班とB班があって、A班月1回、B班月1回、だから学校としては2週間に1回ほど花を生けてもらっています。本当にありがたいです。今日、私の校長室に花が置いてあったのですが、私が出張でいないときにはお饅頭が置いてあります。すごくうれしいです。

これは小中連携です。中学生が小学校の方に行って挨拶運動をしています。これは中学生と小学生が地域の清掃活動、特にV S活動といっているのですが、こういうふうな湯田温泉の足湯の清掃とかですね。中学生と一緒に、今週の金曜日になるのですが、これで3回目になります。小学6年生と中学生全部と一緒にやっています。いずれ中学校に上がったなら、こういう先輩になりたいなという憧れを持ってもらうということで、小中連携を図っています。

これは挨拶運動ですね。地域の方と一緒に挨拶運動、こうやって並んでいます。ここ

はいいのですよね。県庁に行く方々がバーッと見ていかれるので、宣伝効果抜群です。私この前通るのはなかなか勇気がいるなど思うのですよ。

地域の方による授業参観です。地域の方がこうやって授業を見られます。そして地域の方が見られて、その感想、教員の目ではなくて一般の教員ではない視線でどういうふうな授業なのかという御意見をもらっています。授業改善に生かしています。

湯田地域の見守り、中学生と地域の方が一緒に見守りをする。そして警察との連携で、ジュニアリーダーズ活動ということで、スーパーで色々な活動をしています。湯田地区の安心・安全です。地域の方と防災、消防署と一緒にコラボして、中学生もお手伝いをしています。湯田温泉祭り、白狐祭りですね。そういうお手伝いとか、これもふるさと祭り、みんなで歌って盛り上げて、結構迫力があって地域から人気があります。

地域の運動会の運営、そして地域のどんど焼きとか七草がゆ、家庭科部が一生懸命、七草がゆを作るとか、そういう手伝いをしています。教職員も頑張っています。地域貢献ということで、これは地域の方、高齢者の方を呼んで、美術の教員が絵手紙の講座をやりました。78歳の男性が校長室に来られ、「私はこの歳になって先生に授業を教えてもらったことにすごく感動をした」と、とても喜ばれて、この歳になって学校の先生に教えてもらったということにすごく喜んでおられました。この後の給食も実はお楽しみなのです。

これは俳句ですね。国語の教員による地域の方を呼んでの俳句講座を行いました。これは11月にやりました。好評でした。

これは先ほど音楽をやっていた教員ですね。地域の方がぜひ合唱の指導をしてくれということで、ああやりましょうということで、地域の方が夜に来られてしっかり合唱指導をしているところなのです。ものすごくやってくれます。今日は体育の授業と、そして音楽の授業、実はお二人とも県の優秀教員で表彰されています。体育は今年度優秀教員で表彰されて、今の音楽の先生は2年前に県の優秀教員として表彰された先生です。こういう素晴らしい先生方に本当に学校を支えてもらっているなど思っています。

これは校長室だよりです。私はやはり学校を開くというのは学校の情報をしっかり地域に発信するというので、校長室だよりを頑張っています。最初はここまで頑張るといのは少し抵抗があったのですが、私の前任の藤本校長先生が108号も出している。これを引き継いだ時には私もびっくりしまして、これはやれるかなと思って、それを目標に頑張りました。今頑張って発行しています。また校長室の前に貼ってありますので、御覧いただけたらと思います。

コミュニティ・スクールを推進するための心構えということで、3つ挙げております。一つ、子どもたちの幸せのためにとの一点で皆が力を合わせましょう。一つ、子どもという鏡に照らして自己を正す。子どもたちとの信頼関係を築き上げましょう。一つ、子どもたちとともに成長しようとする方向へベクトルを開いていきましょう。これを学校の柱として頑張ってやっていこうというふうに思っております。

最後になりますが、すごく花生けのメンバーの方が明るくて、色々なことを校長室で話して帰られます。私もその場において面白い話を聞かせてもらい、面白い話をしているのですけれど、和やかな雰囲気です。ざっと本校の取組みについて説明させ

ていただきました。

また何かありましたら御意見いただきたいと思います。ありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。それでは先ほどの授業視察や、ただいまいただきました説明も踏まえまして、御感想など一言ずついただきたいと思います。まず教育委員さんからコメントをいただき、その後、市長、教育長にコメントをいただきたいと思います。

それでは山本委員さんから順によろしく願いいたします。

○山本委員

はい。校長先生、今日はありがとうございました。とってもいいシーンをたくさん見せていただいたような気がしています。まず廊下を歩く子どもたちの挨拶と笑顔に癒されたという感じですが、本当に子どもたちが落ち着いているなという気がします。子育て広場から出てきた生徒たちに「君たち何年生？」と聞いたら「3年生です」というふうに、非常に堂々と3年生だということが言える中学生って素敵だなと感じた次第です。

こうした子どもたちになるということが、山口市内のどの中学校でもあってほしいなと思いますけれども、そのためにはやはり校長先生がおっしゃった、これ一点だということが、本当に理屈じゃなく学校を開くということだろうと思うのですけれども、学校訪問をさせていただいて、私は地域に開かれるということが大きく二つあると思います。一つは、「こんなこと私たちは昔からやっているから、今更わざわざ考えなくても」という消極的な地域に開かれている学校と、「そうはいっても今からの時代学校と地域が一緒になって新しい地域を作っていくのだ」ということに燃えていらっしゃる学校・地域と、二極化が進んでいるような気がいたします。そこをなんとかしないと、これ以上の発展がないのかなと思いますけれども、今、山口市内の地域のコーディネーターさんというのは色々な様態があります。いわゆる地域交流センターの職員であったり、学校単独であったり、色々な形があるのですが、私たちが若い教員のころ、何もかも学校に任せきりで、学校の負担がものすごく大きくなったことがあります。極端に言えば、箸の持ち方がうちの子はできないから先生教えてあげてよ、という時代がありました。その時代を経て、各家庭や地域、あるいは学校の教育の役割分担をもう一度見直しましょうよという時代に入っていました。しかし、今からの時代、校長先生がおっしゃった、理屈なく一点集中の情報発信だと、そのために地域や学校が色々とコラボしていくのだということになれば、もうこれは役割分担ではなく、今から考えなくてはいけないのは、仕組みづくりだろうなと思います。したがって、どのような様態の学校であろうとも、その様態に対応する仕組みというものがぜひとも必要だと。その仕組みの一番のベースはやはり予算だろうと。どんな仕組みであろうとも、その学校の活動、あるいは地域の活動が充実していくような予算をやっぱりきちんとつけていく仕組みづくりが今からは必要なのかなというふうに思いました。

それから、ICTですが、学校訪問をさせていただいて思うのは、去年に比べてずい

ぶん使用率、活用率が上がってきているなどということです。特に低学年では、色であるとか形であるとか、場面であるとか、そういったものを直感的に理解するために役立っているような気がします。高学年になると、論理的な思考をサポートするために役立っているような気がします。いずれにしても、今から必要になってくるのは、今日も体育の授業で色々なものを使っていましたけれど、それをベースにするソフトが今からは絶対必要になってくるなど。そこも、市長さんを前にして御無礼なのですが、予算の話ばかりしますが。やはり予算をつけていかなければいけないのだろうなというふうに思います。

それから最後です。合唱なのですけれども、あれだけの大合唱は私も初めて聞きました。本当に涙が出ましたけれども、やはり自己表現なのですね、自己表現には目的が二つあると思います。一つは他人に聞かせる自己表現ですね。もう一つは自己発散ですね。いわゆるフラストレーションの解消ですね。この両者を兼ね備えた今日のような合唱を経た子どもは、必ず大きくなったら、コミュニケーションと、それから他者との協力ですね。合唱であれだけのシーンを作れるというのは、他者との協力において絶対大きくなった時に役に立つだろうなど、やはり未来を支える子どもたちを今、湯田中学校は育てていらっしゃるなということを感じました。

すみません長くなりました。ありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。それでは竹内委員さん。

○竹内委員

はい。今日は授業、それから最後、音楽で締めくくっていただいて、本当に素晴らしかったと思います。

また今日は市長さんも来ていらっしゃいますが、ICTの活用も含めて、地域に開かれた学校づくりをしていく上で、ずいぶん予算的にも御配慮いただいているなどということを思いました。私は今の湯田中広場を見ながら、ふれあいタイムを本当に子どもが柔らかい顔、明るい顔をして、子どもたちと接している様子を見まして、とてもいいなと思いました。私自身、小さい子に対しては結構顔の筋肉がゆるんでくる、そういったところもあるのですが、見ているだけでも本当に顔が緩みました。

自分のことを言うとおかしいのですが、私は下の娘が8カ月の子どもを連れておりまして、先日も帰ってきていて、上の孫よりも下の子のほうにすぐ目が行きまして、外から帰ってくるとすぐそちらに行くような状況があります。本当にかわいいなと思います。

それからICTを活用するタイプの授業ですけれども、どんなふうに使われるのかなど思っていましたけれども、最初子どもに見せる、それもスローモーションで見せられるというのが、そういう機器なのですよ。特性を上手に使っていらっしゃるのではないかと思います。私は、昔、技術科の教員でしたので、子どもに見せるということを実際に大事に考えてきたのですが、なかなか手作りの教材、教具、それから実験とか

OHP、ビデオというようなことをやっているうちに、そのうちパソコンが入りました。やがて情報基礎という領域が出てきて、昔はベーシックというプログラム言語があったのですが、それを使ってまねごとをやってみたことがあります。しかし今本当に情報通信技術、ICTというのはそれを活用してかなければいけない時代だと思います。ICTもやはりツールですから、視覚から入る情報というものは大切にしなければいけないのですが、やはりよく言われる、手で色々書いていくとか、ノートをとっていくとか、そういうこともこれからは大事なかなと少し思いました。

それから最後の音楽ですけれども、音楽の授業は本当に素晴らしかったと思います。曲名は二つありましたが、実は昨日私は地元の老人クラブのカラオケで浜辺の歌を歌いました。この歌はいい歌ですね、本当にいいと思います。さらに大地讃頌というのは、昔、私が教員をやっていたころにも歌われていた曲で、今日は背中からぞくぞくと来るくらいの迫力があって、素晴らしい合唱だったと思います。

コミュニティ・スクールということで、地域の教育を取り込みながらやっていくことで、また貢献していく。だから足湯の掃除をしているニュースだとかを聞きますけれど、他方は、やはりこうやって、さつきの会の方に歌のお礼をするのだということで、一生懸命歌っているのが本当に素晴らしいなと思いました。

今日は本当にどうもありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。それでは横山委員さん。

○横山委員

はい。私は元学校の教員ではないので、一般人で、小郡の小学校で運営協議会のお手伝いをさせていただいているのですが、今、湯田中学校を見せていただいて、この町の真ん中にある学校という立地と、それと地域の方々の要求を聞かれる耳を上手く使われて徐々に長い時間、3年くらい前からこういうことをされているとお聞きしました。やはり時間が少しかかるのだなと思いました。授業その他については、今、言われたので、実はここの地域とともにある学校というので、湯田中学校という湯田の地区の名前というのは今から未来永劫なくならないと思うのですね。

話は少し変わりますが、小郡の上郷小学校において区画が変わりまして、上郷という地域としての名前がおそらく10年後にはなくなると思います。そういうことで、学校と地域をつなぐということを今から10年かけて、中途半端な時間になりましたけれど、進めていきたいと思いますので御協力お願いいたします。

○藤本教育部長

ありがとうございました。それでは宮原委員さん。

○宮原委員

はい。本日はありがとうございました。

体育の授業でタブレットを使いながら学習をして、子どもたちが自分たちで見ながら考えているところを拝見して、やはりこの先将来の社会はICTの技術の発展の対応に追われるとか、グローバル化に何とか対応していくためには追われるのではなくて、それを使ってどういう社会を作っていきたいのかということ子どもたち自身が考えることができる。そういう力が必要になってくると思うのですね。ですから技術の進展、技術の発展にある意味ブレーキをかけて、別の価値観に転換するとか、方向転換をするようなことも必要になるかもしれないし、こういった技術を使って望ましい社会とは何かということを考えることができる。子どもたちには、そういう大人になってほしいなと思っています。

どういう社会にしたいかということを考えるときに、やはりインターネットによって色んな地域、世界のことを知る、世界の人々のことを知るということもあるでしょうし、一方で身近な人、地域に住んでいる人たちと直接関わりを持つ、そしてそういう人たちがこの地域と一緒に住んでいる人たちなのだというをリアルに感じていくということがすごく大事なことだと思います。それが湯田中広場の中で具体的に実践されているなということ強く感じました。やはり今の時代は世代間が断絶していて、私が子どものころは、どの世代も知っている歌とか、歌謡曲でも子どもから大人までブルーライトヨコハマを知っているとか、そういう時代があったのですけれど、今、子どもの世代の歌を知らないですよね。なかなか共有できるものがなくて、本当に一般的に小学生・中学生・高校生といっても、共有しているものがまったくないと感じるのですけれど、ああいったように湯田中広場のようなところで一緒に過ごすことによって、本当に身近な会話ができる。喜怒哀楽と一緒に感じるができるというのがとても大きなことだと思います。それが湯田中の中ではICTを使ったもの、今までは導入が盛んに言われていましたけれど、活用がどんどん広がっていく。それが実際に湯田中であって、またリアルな、地域の人たちとの関わりが実践されているということは本当に素晴らしいと思っています。

今までは先生方が子どもたち、今はちょうど地域のお母さんたちにも先生方が色々なことを提供して、学びの機会を提供してくださっているのですが、これからは私も生涯教育として、ICT関係、スマホを始めとしてSNSについても本当に遅れをとっています。そういうこともまた学校で、それから子どもたちに学ぶことができたら素晴らしいなというふうに思っています。

先ほど井原校長先生がおっしゃったように、開発的生徒指導というのは、私は初めて伺ったのですけれど、こうしなさいとかこうあるべきではなくて、子どもたちがそれを感じていけるような仕組みづくりを作っていらっしゃるというのが本当に素晴らしいなと思いました。それが本当に大事だなと。実際にできるのだなということに感動しました。

私は子どもたちの合唱でつい涙が出てしまうタイプなのですが、先生がおっしゃっていたように、ここでみんなが合唱するということが世界平和につながっているのだよ、ということが感じられるような合唱だったのですね。やはり委員さんたちもおっしゃったように、自分の声を出して届ける。そして歌うときに周りの人たちとの声を一緒

に響かせあうということの中にそれがやはり平和に繋がり、湯田中広場で色々な人とつながる、関わるということが、そういう平和につながっていくことを感じさせてもらうことができました。どうもありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。それでは佐々木委員さん。

○佐々木委員

はい。今日はどうもありがとうございました。

湯田中に来させていただくことは結構あるのですが、日頃から感じていますが、非常に潤いがある学校なのですね。山口市の学校は基本的にどこでも潤いのある学校なのですが、特に湯田中学校は入った時から雰囲気は温かいし、それから生徒の表情はもちろんなのですが、教職員の方々、先生方とか事務職員の方々の笑顔も注目するべきところかなと思っています。

それで、先ほど体育館で授業を見させていただいたときに、コミュニティ・スクールの学校運営協議会のメンバーの方がいらっしやっていて、少し話をしたのですが、今日はこういう特別な会がありますので、来られたのですかと伺ったら、いいえ違いますと。先ほど校長先生の御紹介にもありましたが、授業を基本的に公開しておりますので、言ってみればたまたま重なったというような。そこも非常に良い点だと思います。学校というところかというところ、これまでは閉じた仕組み、システムということで、なかなか開けないというところがあったのですが、それを近年開いていこうと、その仕組みの強力な原動力がコミュニティ・スクールかと思うのですが、全国に誇れる、こういうふうになれば学校は開くことができ、なおかつ潤いがあって、地域の方も自然と入ってこられて、そして生徒もいい笑顔になると。ですから機械的に作られた挨拶ではなくて、自然な笑顔を見ることのできる挨拶、それから対話というか、会話へと発展しうる、中学生と話をさせてもらったこともあります。

非常に自然な温かさ、潤い、そういったものを感じられる学校、全国に誇れる学校経営がなされているのではないかなと思いますし、そういった学校が市内にあるということをお自身もうれしく誇りに思った次第です。以上です。ありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。それでは佐藤委員さん。

○佐藤委員

はい。校長先生、ありがとうございました。

私も一番印象に残ったのは子どもたちの表情でした。参観させていただいた広場も授業もどれもとても素敵で、共通することは何だろうと考えたときに、それは子どもたちみんなに平等に機会があるということなのではないかなと思いました。体育の授業を見せていただいて、私自身、長縄とかもその他大勢でやっていて、とても苦手だったの

ですよね。いつも入れなくて、いやだなと思いながらやっていたのですが、今日のようにたとえば3人組でしていたら、全員が回す役でも主役だし、飛ぶ人も主役になります。なぜそれができるのかなと思ったら、やはりそれは先生の力もあることが前提ですが、ICTの効果もあるのだなと思いました。今なら私もスローモーションで見て、コツさえわかればいけるのではないかと思うときもあるのですよね。体育って体で覚えるとかってコツなのだと言われるけれど、できない子にはできないので、それを頭で理解することが先にできていたら、自分だって回す役なら活躍できたのかなというふうに思えて、やはりICTが進むということは人の苦手意識を減らすことにもつながるのだろうなというように感じました。

音楽の授業なのですが、あれが合唱部じゃないということが素晴らしいなと思っていて、私は音楽も苦手なのですけれど、実技系のことがすべて苦手なのですが、全員が部活動に入らなくてもあの授業が受けられるということって素晴らしいくて、合唱の一員に口パクの子がひとりもいなくて、みんなが歌えるということって素敵だと思いました。私も山口で育って色々なチャンスがあったらもっとコンプレックスとかが少なくなっていたのではないかと思うと、子どもたちも羨ましいなと思いました。

最後の広場なのですが、他のものと違って一部の子どもたちが参加しているのですが、それで印象的だったのは、限られた一部ではなくて、来ても来なくてもいいよというところであって、例えばあそこの中で今日が初めてという子もいたし、何回も来ているという子もいて、あれがクラブ活動とか委員会となったらそれ以外の子が来れない。学年でみんな来てねとなったら来ていない子も来なければいけないしというところで。来ても来なくてもいいけれどチャンスは誰にでもあるというところが素敵だと思いました。

少し個人的な話になるのですが、私自身は大学で保育職を目指す学生たちを指導しているのですが、今こういう世の中で、保育職が不足している中で、やはりみんながいつから子どもたちと接する仕事をしたいと思うようになったかということ、やはり職場体験とかが多いです。それ以外にも子どもたちが赤ちゃんとかに接する機会があって、この接触体験が、あの子たちが3年から5年後、高校を卒業するときに、どういう進路を選ぶのだろうかというのを個人的にはとても興味深く感じました。

ありがとうございました。

○藤本教育部長

それでは渡辺市長、お願いいたします。

○渡辺市長

色々な先生方、皆さん方が、いい声で、意見や対応をされていまして、教育委員の方々も仰っておられましたが、私も同感です。

校長先生、本当に今日はありがとうございます。

校長先生の人柄そのものが湯田中学校のムードになっているのかなとふと思いました。子どもたちも笑顔がいいし、挨拶も自然にするし、先生方もみんな大らかにやって

おられる。やはり校長先生の人柄が出ているのかなという印象を受けました。

また校長先生自体が前の校長先生から地域づくりをしてきている。そういうことを素直に受け止められるという先生のお人柄がこうして学校を作っているのかなと思うし、時代の良いつながり、先生と子どもたちのつながりというものも感じました。全然こだわりがないというか、自然とみんなが仲良くなっているのですね。

そして体育や音楽のことがありましたけれど、私も聞きながら思ったのですけれど、楽しみながら学んでいるという印象を受けました。仕方なくやるのではなく、楽しみながら学んでいる。そしてまた楽しみながら一生懸命やっているような感じがして、そういったことも先生方がさりげなく教えておられるのかなとも思いました。

それから広場はよかったですね。開かれた学校であり、また学校がコミュニティの中核をなしている。まさにそうしたモデルをやってもらっていると思います。先ほども世代間の話がありましたけれど、赤ちゃんを育てるお母さんがいらっしゃって、そして花を添えるなど、教室を飾る高齢者の方や児童生徒もいて、多世代の方々がみんなそこに集まって、赤ちゃんから高齢者まで、そしてつながりを持っている。赤ちゃんをかすがいにして繋がりを持っている。なんだかもすごく楽しいですよ。ああいう場所にいる赤ちゃんというと、私の感覚で言えば、半分くらい泣いているのかなと思っていましたが、全然泣いてなくて、少し泣いてもまた笑顔になりますよね。そうした赤ちゃんを通して児童や生徒もむしろ学んでいるのかなという感じがいたしましたし、素晴らしい広場、いい題材を取り上げた広場であると思いました。こうしたコミュニティ形成の多世代が交流するいいモデルになっていると感じました。

それから冒頭にありました、体育の授業にタブレットというのが、こういうICTの活用の仕方があるのかと思い驚きました。来る前にタブレットを使うという話は聞いていましたが、タブレットと体育の授業について、どういう活用をされるのかピンとこない所があったのです。体育の授業を見ていると、縄跳びをやりながら、3人でチームになってやっておられました。体育というのは本来これなのだなど、知というのですか。頭で考えることで体を動かす。そして体を動かすことで考えることに結びつける。身体と一緒にした体育というのが原点かなと思いました。通常、私たちは体だけ鍛えていく体育というようにすぐ思うのですが、今日は頭、知識、心、そういうようなものが体を動かす、命令する、そして敏感に体が動く。体が動くことを習慣にしようという方へまた伝える。つながりというものもあって、縄跳びをしながらチームを作る。素晴らしい、発想がいいですね。ああいった体育に取り入れて、端末やタブレットの中で動画を見て、なるほどと、それを見ながらどのようにしていったらいいか、すぐ次の動作に移れますよね。こういう端末の使い方があるのだなと嬉しくなるような、素晴らしいことだと思いました。

そして音楽もよかったですね。最初に入った時に先生が言われたことが、聞く人の心になって歌おうねということでした。なるほどと思いましたね。音楽を聴く人に楽しく聴いてもらう、あるいは聴く人にどう訴えられるかということで歌おうねという。これも原点を久しぶりに確認したような気がしますね。我々はどうしても歌というものを歌が上手になるとか、学問的なこととか、歌を歌うことは音程をきちんとするとか、それ

が音楽の教育だと思っていましたが、今日聴く人に感動を与える、そういうものが本当の音楽だということを最初に言われて、どうかと思ったら歌っている人みんながそうだったのですね。音程をきちんとするというような感じではなく、聴いてもらっている人にいい感じを与えたいということが、素晴らしいと思いました。

先ほども言いましたけれど、校長先生の人柄なのでしょうね。そういうものが全体を包んでいるような気がいたしました。うれしかったですね。今日はいい現場を見させていただいてありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。それでは教育長、お願いします。

○藤本教育長

はい。今日はありがとうございました。先週ちょうど群馬県の高崎市の教育長が山口市に来られて湯田温泉に泊まれて、歩いている途中に下校中の湯田中の生徒とすれ違って、その子たちが面識もないのにいきなり挨拶をしてくれた、非常に明るい表情で挨拶をしてくれたとすごく感動しておられました。ああ、すごい学校だ、すごい地域だなと、まさに地域に開かれた学校だということを思っていたらよかったみたいです。今度また12月に東京や京都からの訪問があるということで、湯田中学校はコミュニティ・スクールとしてもかなり全国に名が轟いてきましたし、先ほど校長先生が言われた、私が当時目指していた全国に誇れる地域とともにある学校に段々なってきたと確信してきている状況です。

当時の湯田中の保護者というか、お年寄りの方々と未だに交流があって、よく教育長室を訪ねてこられて、当時の話とか、子どもたちの活躍とか、子どもたちと今こういう関わりを持っているのですよということを本当に楽しそうにお話されます。まさに学校に行くことが生きがいになっている。先ほど、学び直しということをおっしゃいましたが、そういうことにもつながっているのかなと思いました。

湯田中学校広場は私がいたときに始めたのですが、お母さん方からも非常に好評で、山口市だけでなく、山陽小野田市とか宇部市とか、他市からも来られております。そういうお母さん方のネットワークが広がって行って、お母さん方からも非常に好評ですし、何より子どもたちの表情がすごくいいですね。こういった広場を通じて子どもたちが将来きつととてもいいお父さん、お母さんになるだろうなと思いました。校長先生が、学校がコミュニティの拠点となっていることをおっしゃいましたが、まさにそうだなと思っております。

授業については、ICTを活用した体育の授業が素晴らしかったと思いますし、それから歌声もすごくよかったですね。以前湯田中学校広場にきたお母さん方と子どもたちに、音楽の授業を招待したというのですね。うちの職員も行ったのですよね。赤ちゃんを連れて、号泣した、誰が聴いても感動しますよということをおっしゃっていました。ぜひそういった子どもたちの優しさであるとか、自己肯定感をこれからも育ててほしいなと思っています。以上です。

○藤本教育部長

ありがとうございます。では、まだ時間もございますので、皆様から御意見等ございましたらどなたからでもご自由にいただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○渡辺市長

今、音楽の話も出ましたけれど、やはり子どもさんたちは、人に聞いてもらいたい、人を感動させたいなど、イベントや色々な行事など、さまざまな地域に出向いて歌っているのでしょうね。

○井原校長

そうですね。子どもたちは多くの人に見られているという機会が多いことから、自分たちの歌が相手の心に響き、感動を与えたのだという自信が段々ついてきています。自信を持って自分たちの心を表現しているなというふうに思いますね。

1年生からそうした活動をしてきて、その積み重ねがあつての3年生ですので、やはり去年の先輩たちが歌っている合唱コンクールで感動し、私たちも来年3年生になったらこうなりたいとか、そういう思いを常にみんな持っていて、合唱コンクールも各クラスがすごく燃えますね。その3年生が集まったクラスですので、保護者の方も感動して涙を流されていますし、私もじわっと来るのですが、あまり泣き顔は見せない方がいいのかと思って我慢しているところもありますが、本当にすごいなと思います。迫力もあります。

○渡辺市長

やはり地域に出かけてそうしている、その積み重ねなのでしょうね。その人たちに聴いてもらえる、そのことがまた自分の喜びになる。教室だけでやるとあそこまで豊かな表現はできないのではないのかなど。地域に出てこそその表現力ですかね。

○井原校長

ふるさと祭りとかそういう機会に歌っていますね。

○渡辺市長

そういったこともまたコミュニティ形成の一つとしていいですね。つながりがあつて。ありがたいですよ。

○井原校長

私は、いつも地域の一員として自分の持っている力を君たちはどういうふう to 発揮するのかということをお話して、また今週金曜日にV S活動で足湯の清掃があるので、君たちは湯田の子どもたちなのだから、湯田の財産といったら足湯だろう、温

泉だろう。だから自分たちの地元の宝をみんなできれいにしようということを行っています。子どもたちもその自覚があるのですね。やるたびにテレビや新聞社が来て載せてくれるものだから、余計に頑張るのですよね。機会があるほど今日もお客さんがいっぱい来た。私が思うに、どこか子どもたちの中に、私たちの学校は色々なお客さんの来る学校なのだという自信というか、そういうのがあるのではないかなと思います。

○藤本教育長

色々な方々から認めてもらえることで自己肯定感とか自己有用感が育っていく。だから学校の先生だけではないのですね。お年寄りの方とか赤ちゃんとかお母さんとか、そのふれあいの一つが湯田中学校広場ですね。

○山本委員

よろしいですか。そういうふうになるのはやはり学校目標だと思うのですよ。

私は以前、藤本教育長の前の岩城教育長と面談したときに、今からは学校の目標も、知育・徳育・体育とかだけを言っていてはだめだと。もっと大きな目を見た学校目標というのがいるのではないですかと言われました。そうしたところに湯田中の全国に誇れるものがあつた。先ほどお話した二極化の中で、今までもやっているじゃないかという学校が、もう一步踏み出て、大きなことに取り組もうとしたら、これくらいの学校目標を設定しないと、地域がその気にならないのですよ。ところが地域はこんな目標を設定したら、校長さんそれはやりすぎだよと絶対に言われるのですよ。そこをやりすぎではないのですよ、と説得力のある、説得ができる校長先生だからそれができているのだと。例えば藤本教育長さんが校長の時から、ずっとそれが綿々と引き継がれているということだろうと思うのですけれど。

○藤本教育長

ちょうど私が校長になった時に目標を変えて、1年目は地域とともにある学校だと、2年目に違う、もう一步出そうということで全国に開かれた学校を打ち出したのですけれど、そのときに言われました。大きすぎると。そんなの子どもたちがびっくりするじゃないですか。いやそうじゃないと語っていて、でも今はもっと花を咲かせていただいているので、本当にありがたいですね。

○山本委員

本当に地域づくりを絡めた学校経営をしようと思ったら、そこまで学校目標を高めないと、無理だと思われます。

○井原校長

藤本教育長さんが校長時代に学校目標というか、学校像を挙げてもらって、私はやはり次の校長としてその学校を引き継いだ時に、校長先生の思いを次の校長として共有するというか、やはり単発的に校長が変わったら学校が変わったということではなくて、

校長の意思を受け継いでその中に自分なりの考えも取り入れながら、継続していかないとなかなか難しいのではないかなど。藤本教育長と色々お話す機会もあって、その考える方向性が一致するというか、そういう思いもあるということがうまくいったというか、今こうして継続に繋がっているのかなと思っています。だから私もこの学校長に就いたときに、全国に誇れる学校というのはなんだかとんでもない目標であるなど思ったものですが、今になってみればこれも一つの手だなというように確かに思います。子どもたちに機会があるごとに話しますからね。全国に誇れる学校、地域の鑑となる学校という、色々な話もすると、子どもたちもだんだん植え付けられるじゃないけれど、繰り返し褒めてやることかなというふうに思います。

今日、色々な話があったのを、明後日また全校集会なので、校長挨拶のときに、渡辺市長をはじめ、教育委員の皆様が来られて、みんな絶大な誉め言葉をもらったよ、と言いたいと思います。そうすると、またみんなやる気が出るのですよね。だからそういうところの自己肯定感を高めていくことが開発的な生徒指導に繋がるのだなというふうには思っています。だからといって叱らないといけないときにはきちんと叱りますよ。でも、認めるところは認めてあげると、やはり違うなというふうには思います。

○藤本教育部長

ほかにございますでしょうか。それでは、他にも色々意見交換等したいという声があるとは存じますけれども、そろそろ予定の時刻を迎えますので、ここで今日の会議に参加いただきました、井原校長先生に、改めてお考え、感想などいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○井原校長

それでは失礼します。今日は本当に多くの方々に学校に来ていただいて、校内の様子を見ていただく機会があって嬉しかったです。

子どもたちにも先ほど話をしましたように、色々な方が見に来る学校なのだということもこれからも言えるなど、それも一つの誉め言葉になるなというふうには思っています。今こうやって色々なコミュニティ・スクールで活動しているのは、本当に地域の方に支えられているからであり、学校運営協議会の方も今日授業参観に来ておられ、また色々な授業の感想も聞かせていただいています。私は地域行事にしょっちゅう出ています。やはり地域に味方を作ろうと思ったら出ていくしかないなと思っています。

今、働き方改革という言葉が先行しており、これはやるべきじゃない、これはやらないといった議論が先行しがちですが、やはり言葉には代えられない、人と人とのつながりが大事であり、顔を合わせ膝を突き合わせて一緒に話をするという機会を校長が作らなければいけないのかなと思っています。私でできることであればやらないといけないなと思っていますが、学校でも課題がないわけではないです。不登校の生徒もいます。この不登校が、なんとかしなければいけないなと思いますが、本当に家族というか、家庭が多様化しているのです。学校に対する要望もものすごく多様化していて、それに受け答えができるかという、今、頑張っ学校では対応しているところもありますが、

どうしても学校では解決できない、そういう課題も出てくると思います。そうした時には、やはり教育委員会の皆様を含め、色々な方のお力をお借りしながら、解決をしていきたい。そのように学校を運営していきたいなというふうに思っていますので、何かあったら真っ先に教育委員会にお願いしに行こうと思いますので、またお力添えをいただきたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。それでは最後に教育長、市長からひと言ずついただきたいと思います。

○藤本教育長

今年度も現場主義を徹底して、予告なしですべての小中学校、幼稚園を訪問しました。特に思うことは、先ほどの話ではないですけど、小中学校においてかなりコミュニティ・スクールとして開かれた学校づくりが浸透してきているなということです。そして先ほどお話があった、ICTの活用率もかなり高まってきているなということを実感しております。また、子どもたちや先生方の頑張りというものもすごく感じました。そして色々と校長先生方と話をする中で、やはりこの山口市というのはICT機器の導入、あるいは補助教員の配置とか、エアコンの設置とかすごくハード面、ソフト面で支援をいただいていることを感謝しておられました。改めて、これも本市の教育に格別な御理解をいただいている市長に全面的なバックアップをいただいているということであり、私どもも非常にやりやすいところでございます。改めてお礼を申し上げたいと思います。

今、本市としては特に力を入れているのがコミュニティ・スクールとか、地域協育ネットを核とした学校改革、それとICT機器を有効に活用した授業改革、これを大きな柱として取り組みたいということを考えています。ちょうど今コミュニティ・スクールについては始めて7年目を迎えるところですが、かなり成果も上がってきています。先ほどの話ではないですけど、子どもたちの自己肯定感とか、自己有用感の高揚、あるいは、学校運営協議会もかなり活性化してきて、本音で色々と議論ができるようになってきました。

また、その逆として、教職員の多忙感とか、もう少しコミュニティ・スクールの周知とか認知をもう少し上げる必要があるのかなと思っていますけれど。やはりコミュニティ・スクールなどを進めるうえで校長のマネジメント力とリーダーシップがとても重要だと思うのですが、一番大事なのはアセスメントとか、やはり地域の声とか色々な声、まず実態を把握することであると思っています。先ほどの学校教育目標がすごく大事だということを言われたのですが、いきなり校長が目標を言うのではなくて、色々な声や実態を把握したうえで共有して目標を立てる。その中で課題とか今後の方向性等についてもしっかり議論して、それをまた地域とか保護者とか子どもたちにしっかり話をするというのも必要なのかなと思っています。地域全体で子どもを育て

るということで、ぜひコミュニティ・スクールを進めていきたいと思っております。

それともう一つICT教育についてもやはり授業が楽しい、学校が楽しい、というように思わせたい。その一つのツールとしてICT機器の活用というものがあると思います。他県のある市で話を聞いてみると、ICT機器を導入した授業を展開することで、授業が変わってきたということでした。それによって不登校の生徒の人数も減ってきたという実態があるようです。このICT機器について、小学校はかなり導入しており、授業改革も進んできています。今後、中学校も今年度中に全部完了する予定ですので、特に中学等についても授業改革を進めていって、本当の意味での教育・子育てなら山口、これを実現していきたいなと思っているところです。

今日はありがとうございました。

○渡辺市長

会議の終了の締めくくりになりますが、井原校長先生、今日は、本当にありがとうございました。素晴らしい視察をさせていただきました。何よりも先生方を含めて、校長先生を含めて、自然な気配りをさせていただいて、本当にいい現場を見させていただきました。本当にありがとうございました。

今回で2回目ですね。こうやって現場へ出てその振り返りを開くのは。この前は大殿小学校の方に行きまして、大殿小学校では特にタブレット端末等を見ながらの視察をさせていただきました。また今日はこうした形で、広場のことからコミュニティ・スクールの関係、音楽とか、体育の視察をさせていただいて、非常に有意義な総合教育会議になったと思います。見た瞬間のことを思い出しながら色々と各委員に意見を言わせていただいて、本当に意義のある教育会議だったなと思います。

そして今日はICT教育、コミュニティ・スクールの大きい目標を持っているという話もありました。そういった中に予算の話もありました。予算があって、そしてそれらの予算を有効に活用することによっていい仕組みができると。仕組みづくりにはやはり予算がいるのだという話もございました。そういう御意見を大切にしながら、私どももいい環境づくりを進めていこうと思いますので、教育委員の皆様方はこうした会議を通じまして、また提言をしていただければと思います。

ちょうど私どもも予算編成に入っていて、11月の始めころに予算編成の基本方針というものを出して、今年の予算編成基本方針というのが「トライ 未来創造予算」でございまして、こういうものに向かって教育委員会はもちろんのこと、そういった予算編成をしていこうという基本方針を出しています。

そうした中で特に私どもは、Society 5.0とか、5Gとか、AIの時代ということで大きく世の中が変わろうとしていますし、そうした中で一番大事なものは人材をどのように育成するか。新しい未来の時代にですね。もう一つはAIだとか5Gとかそういうものに対応できるような資本基盤、社会基盤というものをきちんとしていけないといけない。これが二つの大きい目標だろうと。特に人材育成ということになると、どうしても教育委員会に教えていただかなければいけない。子どもの時に未来につながる教育人材を育てていく。これが将来の新しいSociety 5.0になる中で活躍

できる人ができていく。そういうように思っています、来年の予算というのは人材育成を受けた形、またICTとを含めた未来へ向かった基盤整備、こうしたような時代になっていますので、またいい予算を配分したいと思いますし、これからも各委員の皆様方には、まだ予算は今が最終の段階であると思いますので、色々と教育委員会を通じてですけれど、やっていただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

今日色々とお出しいただいた意見、それから視察させていただいたことについては予算を反映していくようにやっていきますのでよろしくお願いします。

4 閉会

○藤本教育部長

ありがとうございました。予定の時刻となりましたので、本日の会議を終了させていただきます。皆さん大変お疲れ様でございました。

15時 会議閉会